

# 第26回会社説明会

2011.12.6

## . 23年度中間決算概要

決算概況（単体）	2
資金利益の増減要因（1）	3
資金利益の増減要因（2）	4
役務取引等利益・経費	5
預 金	6
貸 出 金	7
有価証券	8
自己資本比率・不良債権比率	9
23年度利益見込み	10

## . 経営戦略

第4次マスタープラン全体像	12
第4次マスタープラン着地予想	13
現場力強化につながる人材育成	14
効率的な企業活動の追求	15
揺るぎない営業基盤の確立（地場 成長3分野）	16
揺るぎない営業基盤の確立（リレバン・法人）	17
揺るぎない営業基盤の確立（リレバン・個人）	18
揺るぎない営業基盤の確立（宮崎）	19
有価証券運用	20
次期中期経営計画	21

# . 23年度中間決算概要

（単位：億円）

	22年9月期	23年9月期	増 減
<b>業務粗利益</b>	286	288	2
<b>資金利益</b>	244	243	0
<b>役務取引等利益</b>	36	38	1
<b>国債等関連損益</b>	3	4	1
<b>その他</b>	0	0	0
<b>一般貸倒引当金繰入</b>	7	0	7
<b>経 費</b>	194	202	8
<b>業務純益</b>	85	86	0
<b>コア業務純益</b>	88	81	7
<b>臨時収支</b>	11	6	4
<b>株式等関連損益</b>	0	8	8
<b>不良債権処理費用</b>	7	0	7
<b>その他臨時収支</b>	3	2	5
<b>経常利益</b>	73	79	5
<b>特別損益</b>	3	2	0
<b>税引前中間純利益</b>	70	77	6
<b>中間純利益</b>	45	45	0

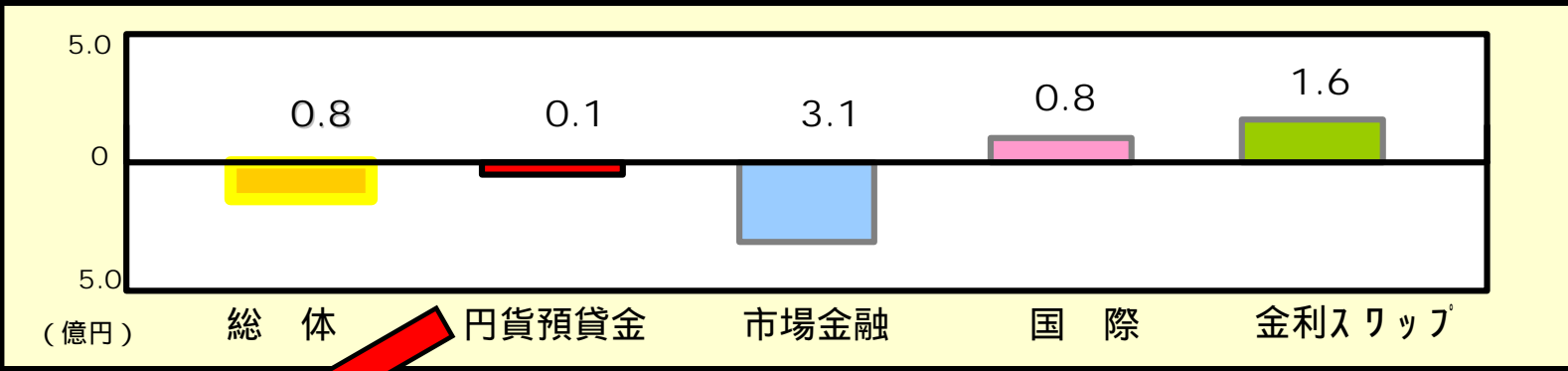
## 《 23年9月期決算のポイント 》

資金利益 前年同期比	0億円
〔 ・ 円貨貸出金利息 ・ 円貨預金利息 ・ 国内有価証券利息 ・ スワップコスト 〕	6億円 6億円 3億円 1億円
役務取引等利益 前年同期比	+1億円
〔 ・ 預り資産関連手数料 ・ 万引35関連手数料 〕	+1億円 +1億円
株式等関連損益 前年同期比	8億円
〔 ・ 株式等償却 〕	6億円
与信コスト 前年同期比	18億円
〔 ・ 一般貸倒引当金繰入 ・ 個別貸倒引当金繰入 ・ 貸出金償却 〕	10億円 5億円 3億円
貸倒引当金繰入額が取崩となったため、貸倒引当金戻入益を臨時損益に計上。	

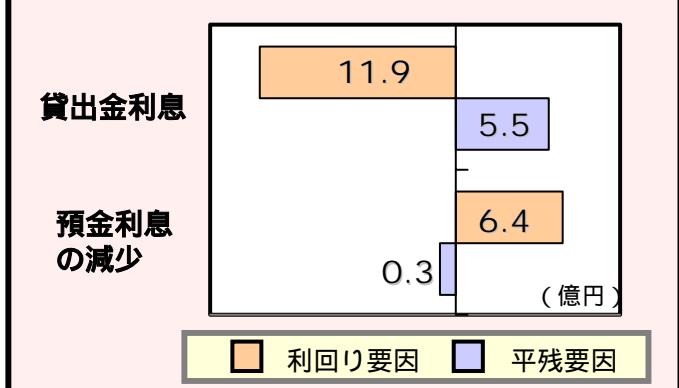
## 《 短信予想比 》

業務粗利益	: + 4億円
一般貸倒引当金繰入	: 2億円
経 費	: 4億円
業務純益	: + 11億円
コア業務純益	: + 7億円
不良債権処理費用	: 7億円
経常利益	: + 14億円
中間純利益	: + 6億円

部門別資金利益の  
前年同期比増減額



円貨預貸金部門



< 貸出金 >  
 利 回 : 0.11%  
 平 残 : +597億円

< 預 金 >  
 利 回 : 0.04%  
 平 残 : +912億円

貸出金利息の前年同期比 6億円を  
預金利息の減少分 6億円でカバー

< 貸出金利息の増減 >

地場一般向け 利息額 : 6.1億円

平 残 +259億円      利回り 0.11%

戦略商品投入による  
ボリューム増加  
リレバン営業強化の成果

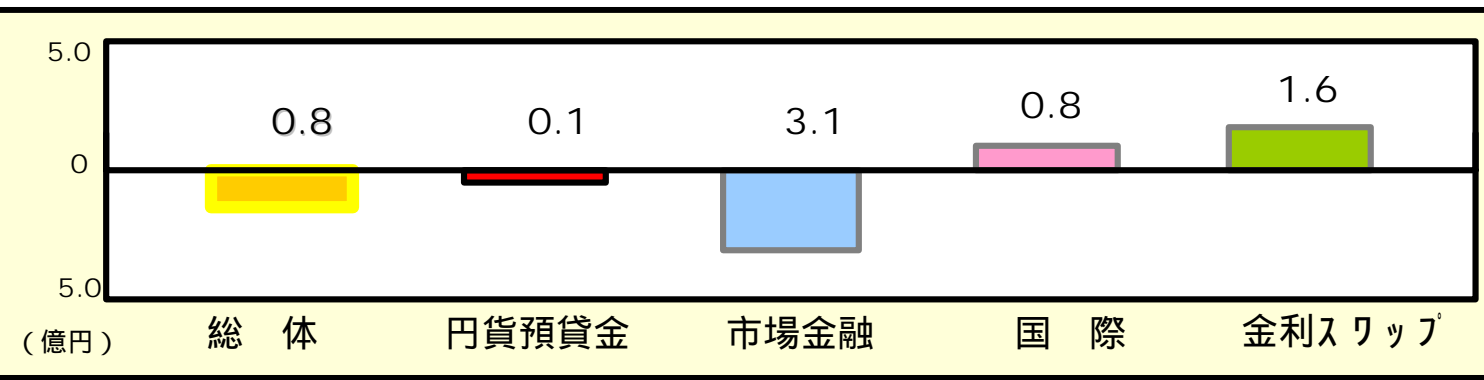
市場金利低下による  
運用利回りの低下

都市部一般向け 利息額 ほぼ前年並

公共向け

平残 +333億円、利回り 0.13%  
 平残 +4億円、利回り 0.03%

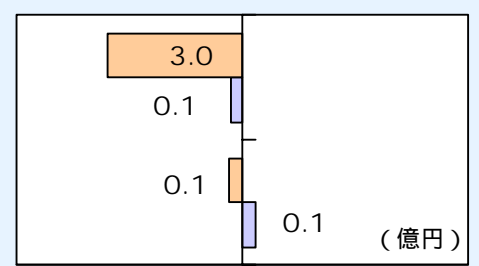
**部門別資金利益の  
前年同期比増減額**



■ 利回り要因    ■ 平残要因

**市場金融部門**

国内投資有価証券  
コールローン等



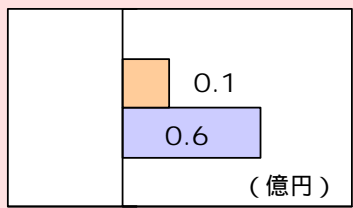
< 国内投資有価証券 >

利 回 : 0.06%  
平 残 : 20億円

< コールローン等 >

利 回 : 0.01%  
平 残 : +187億円

**国際部門**

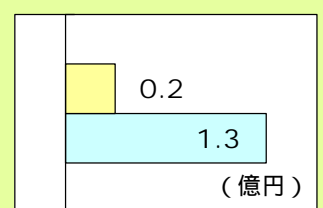


利鞘及び運用額の増加  
による利息収入増加

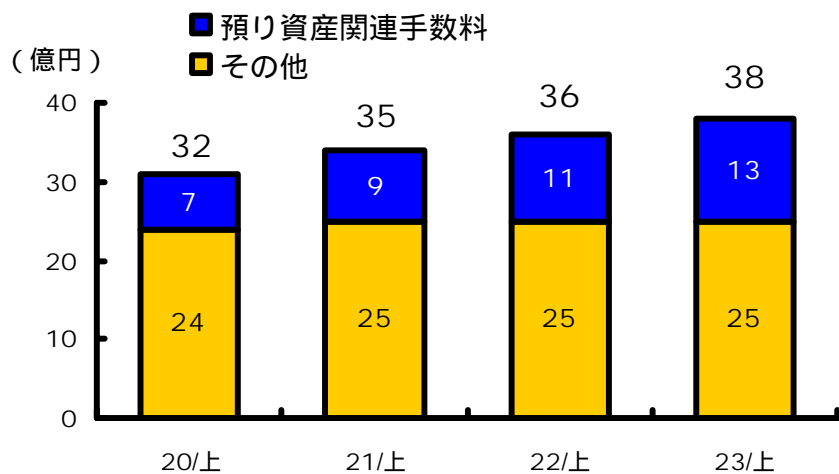
利 鞘 : +0.03%  
平 残 : +153億円

**金利スワップ**

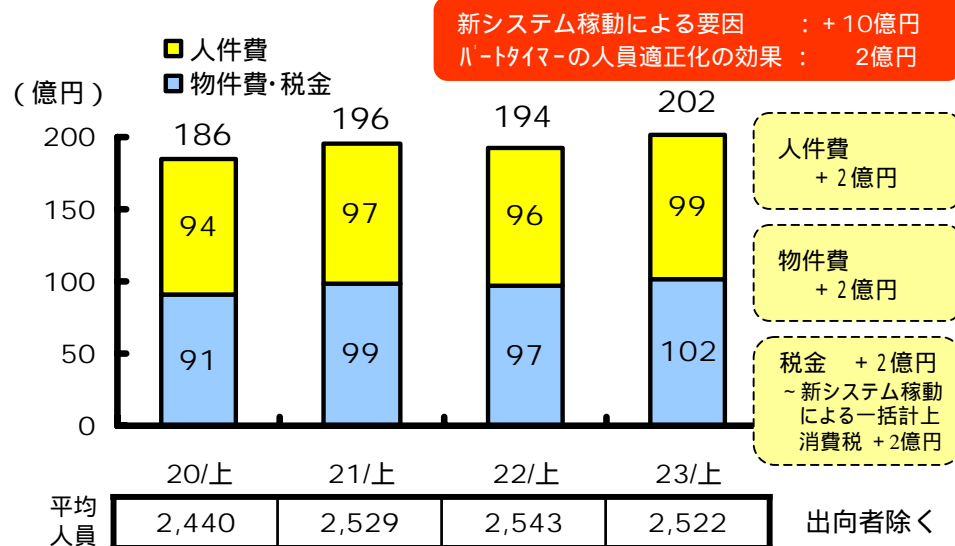
受取利息の増加  
支払利息の減少



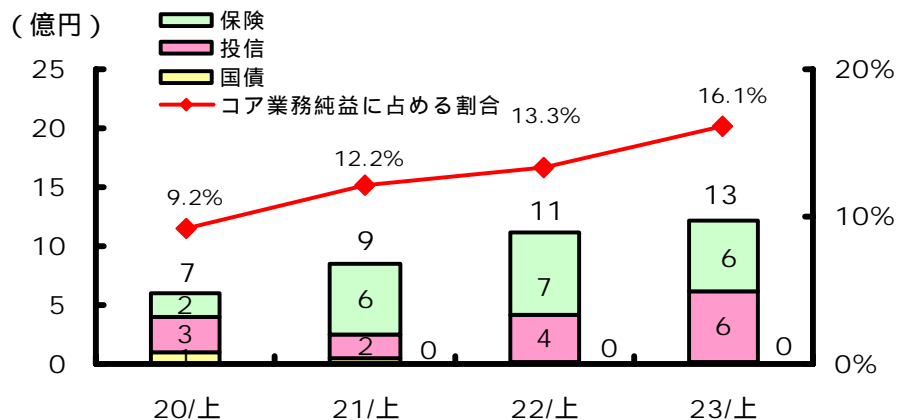
## 役務取引等利益 前年同期比：+1億円



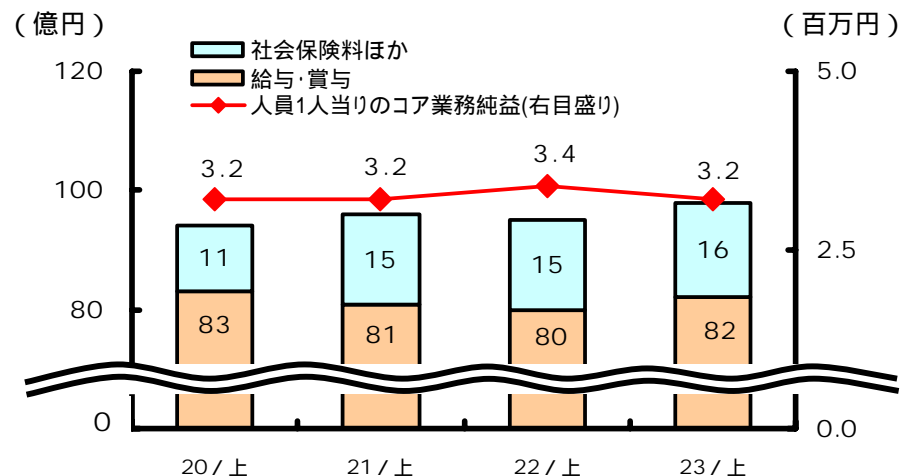
## 経費 前年同期比：+8億円



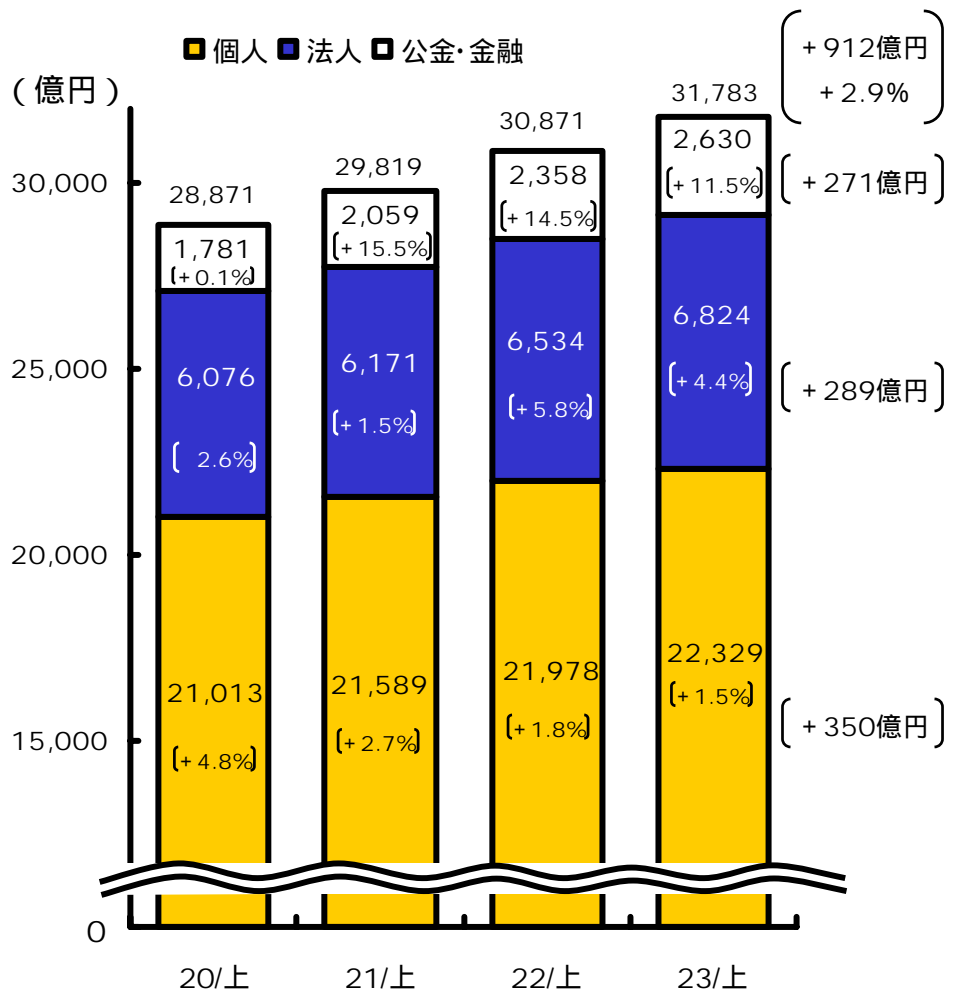
### < 預り資産関連手数料内訳 (コア業務純益に占める割合) >



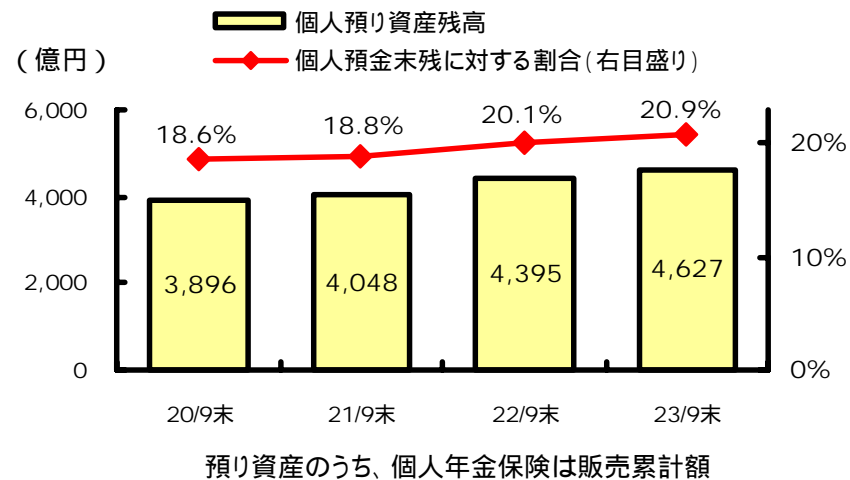
### < 人件費内訳、人員1人当りのコア業務純益 >



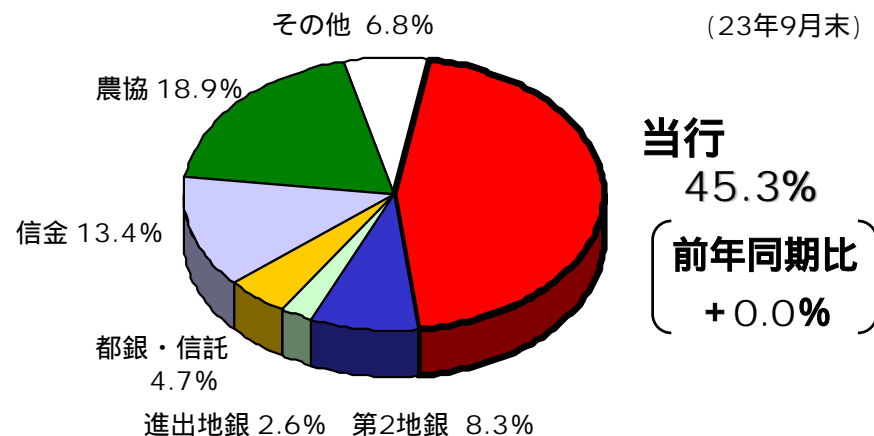
預金平残：31,783億円 前年同期比：+912億円



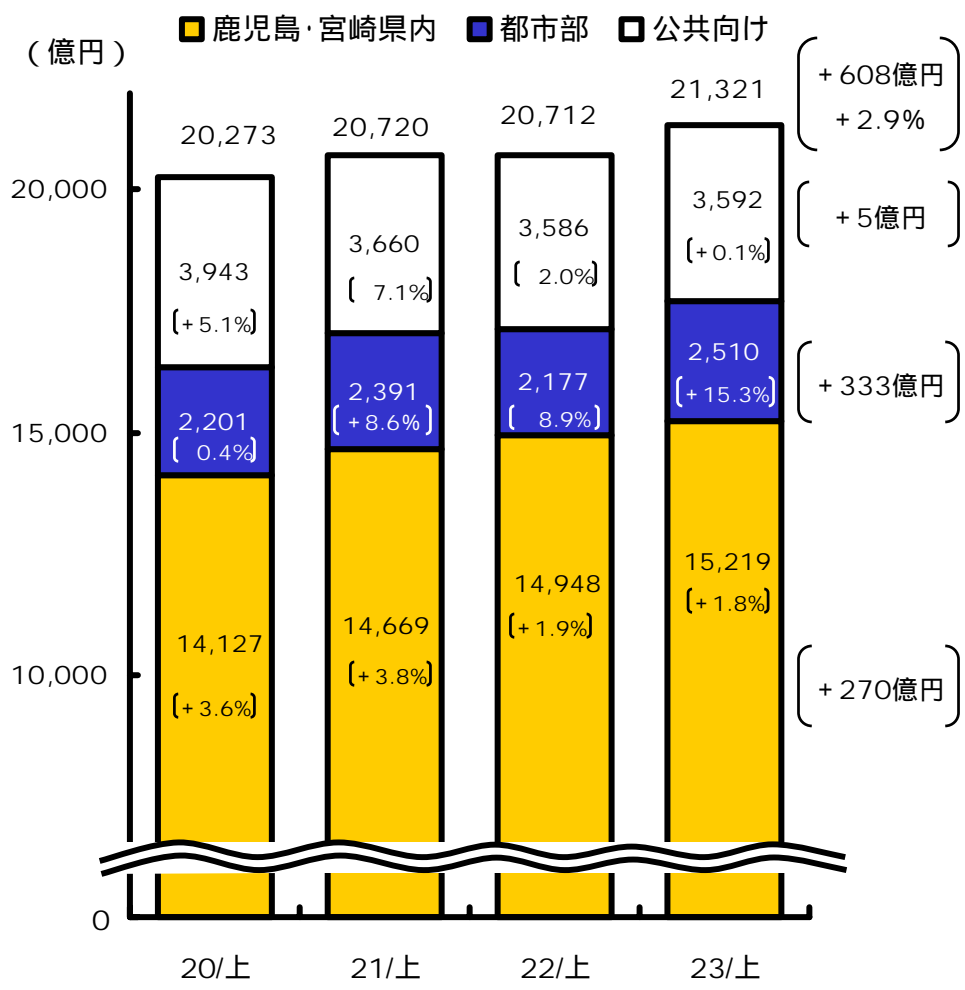
預り資産推移 (国債・投信・保険)



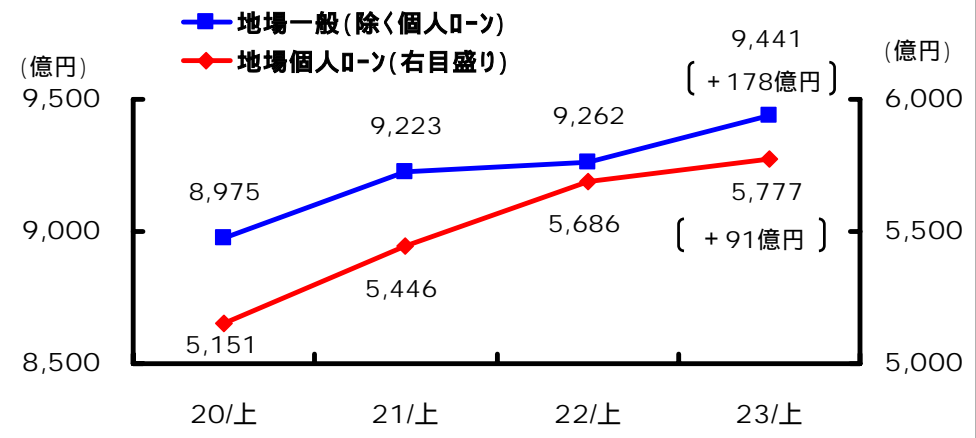
預金 鹿児島県内シェア



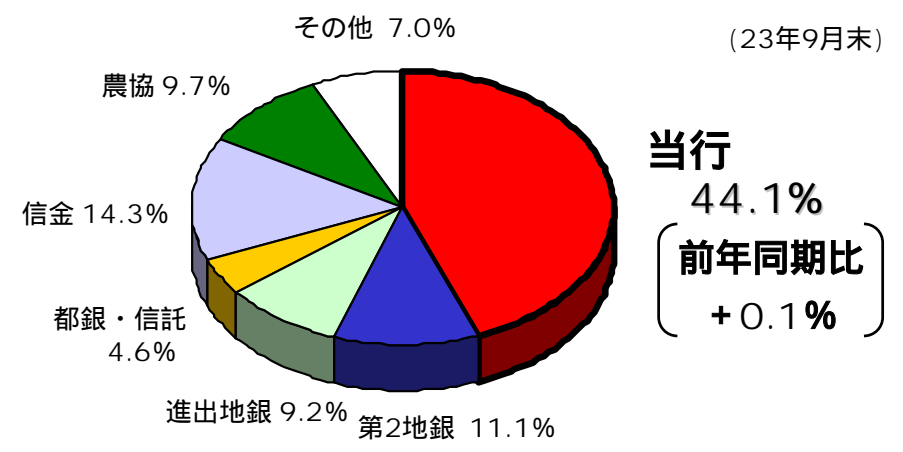
## 貸出金平残：21,321億円 前年同期比：+608億円



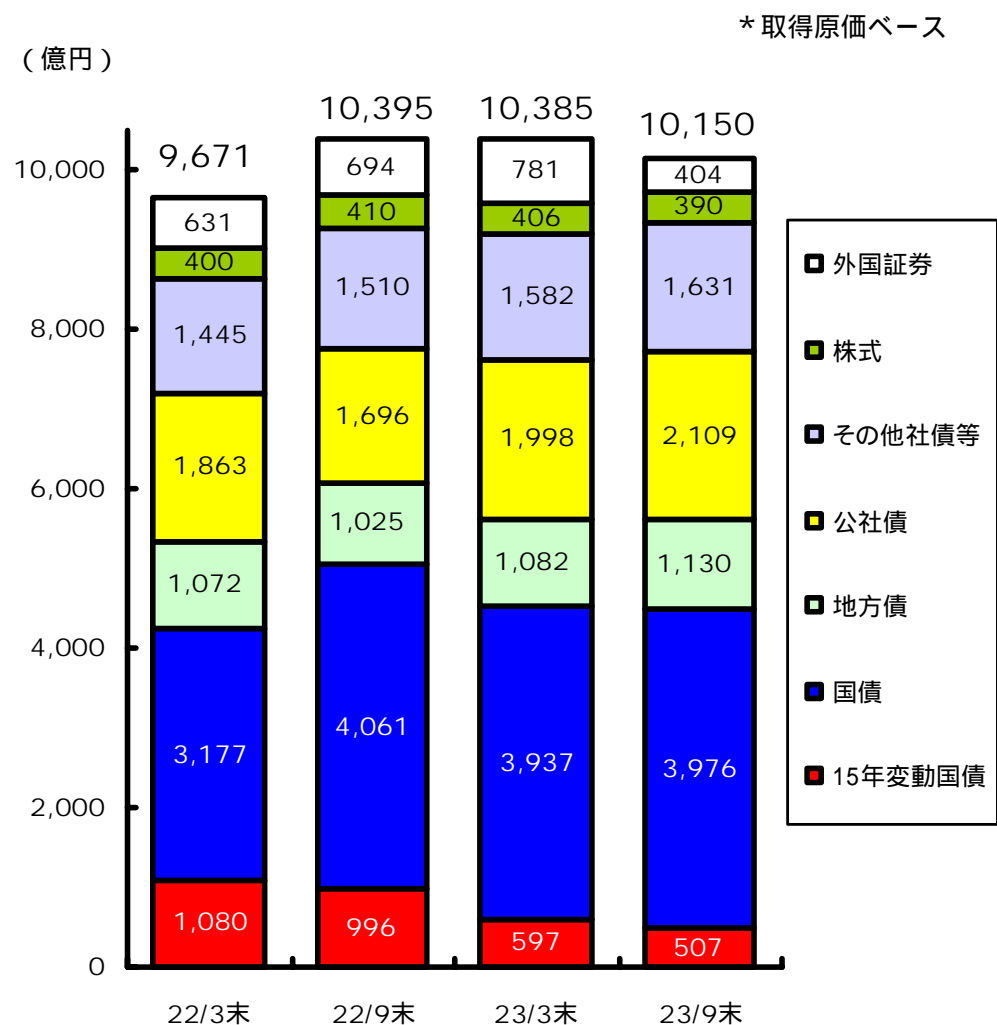
## 地場（鹿兒島・宮崎）貸出金平残推移



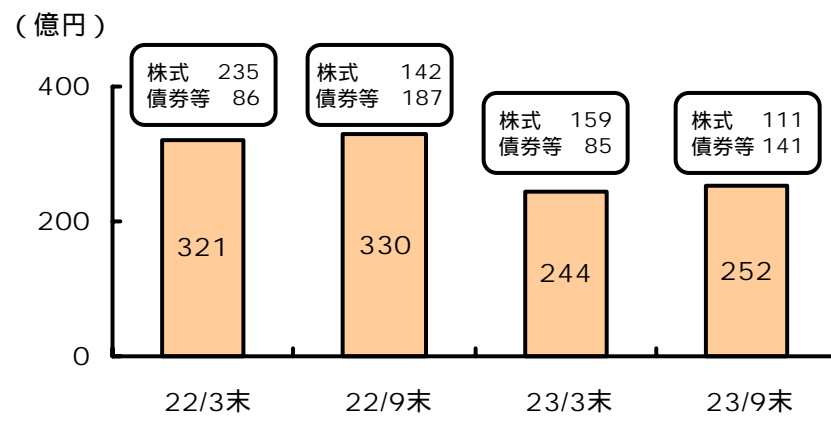
## 貸出金 鹿兒島県内シェア



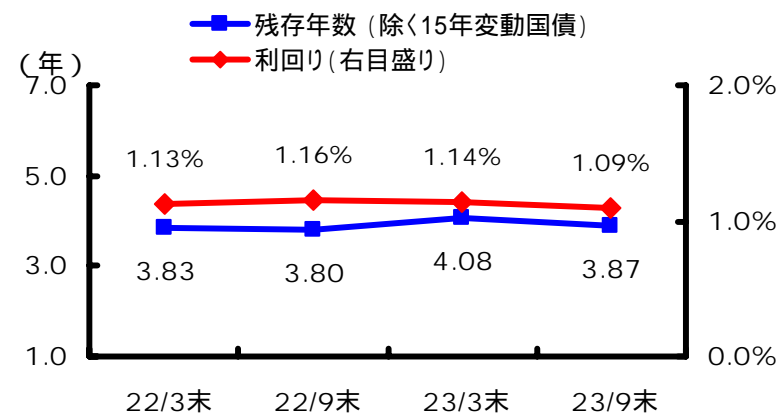
有価証券末残：10,150億円 23年3月末比：235億円



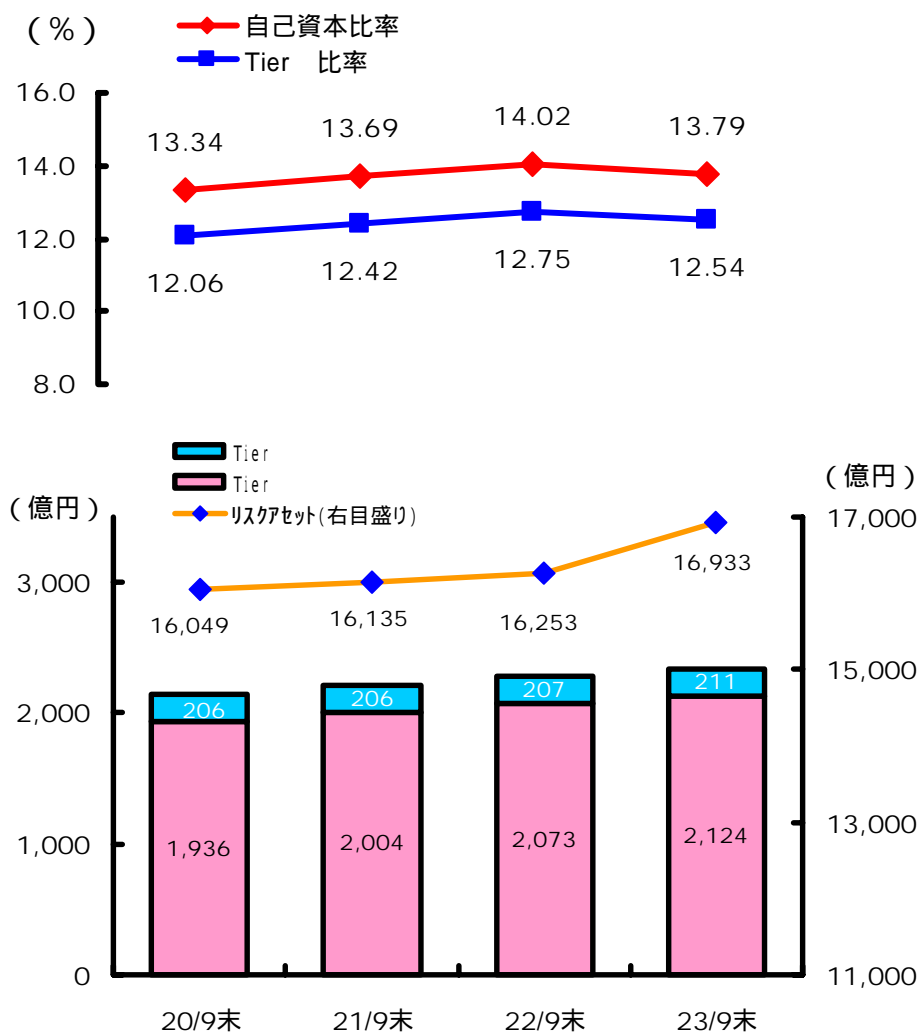
その他有価証券評価損益：+252億円 23年3月末比：+8億円



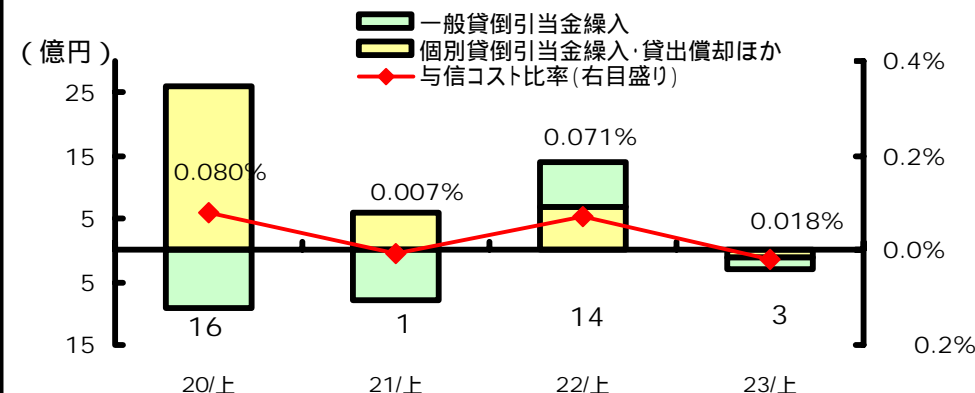
平均残存年数・利回り推移（国内有価証券）



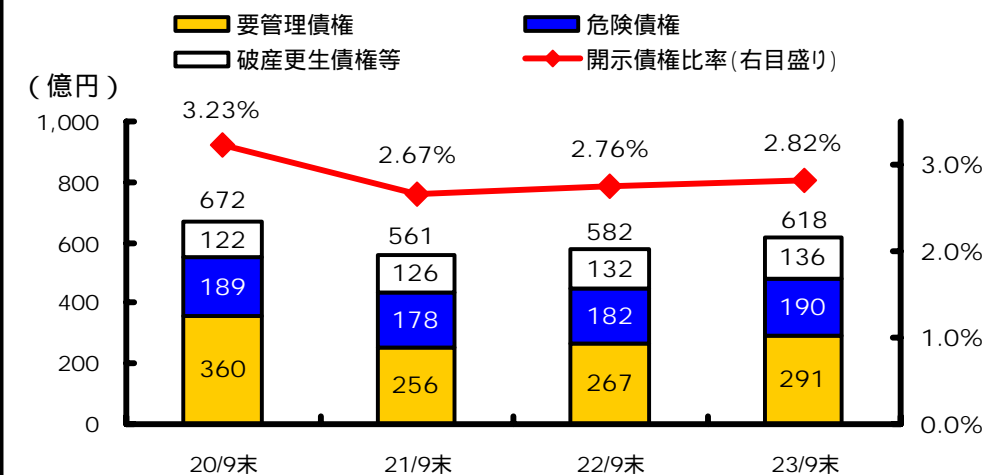
### 自己資本比率・リスクアセット推移



### 与信コスト



### 金融再生法開示債権 (金額・比率)



(単位：億円)

	22年度	23年度見込み	増減
業務粗利益	566	567	1
資金利益	491	478	13
役務取引等利益	74	78	4
国債等関連損益	0	10	10
一般貸倒引当金繰入額	21	1	22
経費	385	403	18
業務純益	159	165	6
コア業務純益	181	155	26
臨時収支	46	15	31
株式等関連損益	11	8	3
不良債権処理費用	33	7	26
経常利益	113	150	37
特別損益	4	2	2
税引前当期純利益	109	146	37
当期純利益	68	87	19

&lt; 前提条件 &gt;

市場金利水準横這い

(資金利益)

- ・ 地場貸出の増強

(経費)

- ・ パートタイマーの人員適正化により、経費削減を行うも、新システム稼働に伴うソフト資産償却及び、システム関係費の増加により物件費・税金が大幅に増加。

# 経営戦略

高い自己資本比率

稠密な店舗ネットワーク

情報生産機能

高いマーケットシェア

高い経費率

当行の強み

## 第4次マスタープラン（平成21年度～23年度）

当行の課題

現場力強化につながる人材の育成（人材育成強化）

IT活用に長けた人材の更なる増強

IT: Key Manを核とした情報生産機能

効率的な企業活動の追求（経営効率化）

本部BPRによる徹底した業務効率化

法人代理店活用による有人店舗の再編

揺るぎない営業基盤の確立（営業基盤強化）

リレバン

成長3分野（環境・医業・農業）

宮崎地区

効率化・基礎固めの2年、飛躍の3年目

地域密着型金融機関としての永続的な成長

更なる成長を目指して

次期中期経営計画（平成24年度スタート）

## チャレンジ目標

### マスタープラン策定当初目標との比較

利益目標	目標	見込み	目標比
業務粗利益	580億円	567億円	1.3億円
コア業務純益	170億円	155億円	1.5億円
当期純利益	90億円	87億円	3億円

経営指標目標	目標	見込み	目標比
OHR	70%未満	72.39%	2.39%
Tier1ROE	4.2%以上	4.1%	0.1%
自己資本比率	13.5%以上	13.8%	0.3%
Tier1比率	12.5%以上	12.6%	0.1%

## 計数計画

預金・貸出金	目標	見込み	目標比
総預金	30,020億円	31,632億円	1,612億円
総貸出金	21,827億円	21,513億円	314億円
純一般	12,298億円	12,165億円	133億円
個人ローン	5,920億円	5,811億円	109億円

有価証券・預り資産	目標	見込み	目標比
投資有価証券	9,368億円	10,536億円	1,168億円
投資信託 保険商品 販売額	800億円	770億円	30億円

## 鹿児島銀行

ビジネスモデルの実効性向上

人 資金 時間

現場力強化  
収益拡大  
サステナビリティ

人材育成

新たな人材教育体制  
バンキングカレッジ（23年6月開講）  
自律的成長の支援  
経営・営業戦略と連動した人材育成

## 地域

急速な少子高齢化  
地域経済の縮小

地域リーダー養成  
地域経済の活性化  
地元雇用の確保

## 行外研修

金融関連 2名 銀行 他

大学（MBA）2名 早稲田大学 一橋大学

海外 14名 上海・インド シンガポール 他

取引先 23名 畜産業 小売業 建設業 ホテル業 他 医業

業界団体 156名 地銀協 全銀協

## 行内研修

集合研修 8,903名 階層別 分野別 他

休日セミナー 4,443名 法人営業 預り資産 財務分析 他

本部トレーナー 319名 融資 医業 市場 個人ローン 業務 企業調査 他

## CSR

インターンシップ 75名 大学生

お金の教室 92名 小学生（親子）

エコノミクス 甲子園 42名 高校生

職場体験 46回 小学生 中学生

## 本部業務のBPR

929項目 (不要と思われる業務) 790項目を削減

総削減時間

93,047時間/年

本部人員

約48人分

23年3月

営業店・営業店サポート部門へシフト

50人

## 人員適正化

22年2月 開始

有期雇用者 (1,399人) を適正化

KOSの内製化 (パートタイマー全てを直接雇用へ)

人員適正化

23年3月

適正化

384人

経費圧縮効果

3億円

## 店舗機能見直し

有人店舗の再編

個人に特化した営業体制・ローコスト化

23年3月

個人特化店へ移行 20か店

代理店へ移行 5か店

総仕上げとして

本部人員削減

最終着地

戦略的人員配置

営業店へのシフト50名

パートタイマー適正化

100人

経費圧縮効果

1億円

最終着地

適正化

484人

経費圧縮効果

4億円

個人特化店へ移行

3か店

最終着地

個人特化店

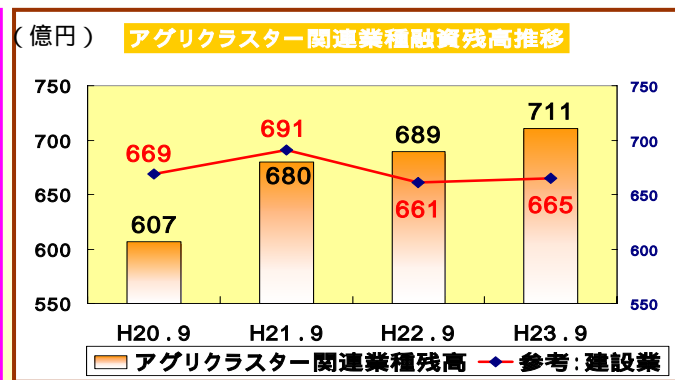
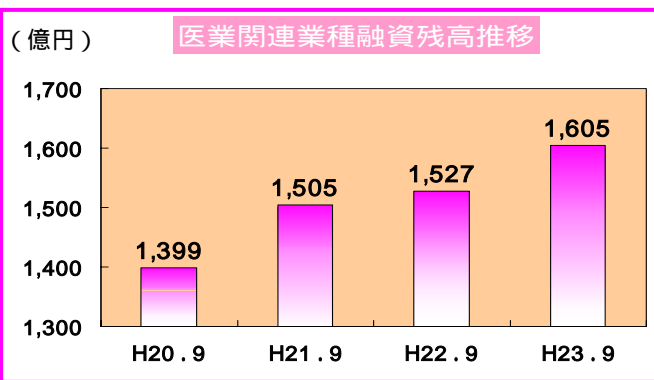
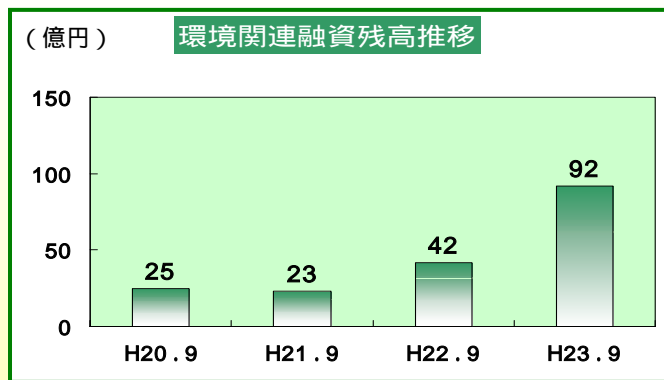
23か店 (有人店舗の14%)

かぎん代理店

35か店 (22%)

経営効率化の確立

新たなステージへ



## 環境

4分野を中心に取組み強化  
 環境格付け制度導入  
 環境格付け融資制度の制定

省エネルギー  
 新エネルギー  
 廃棄物・リサイクル  
 排出権取引

## ナチュラルエネルギーへの取組み拡大

**地熱** 電力会社との共同研究に着手  
**風力** 陸上風力発電プロジェクトへの参加  
**太陽光** インフラ建設に向けた地公体との協議開始

## 医薬

介護・福祉分野への取組み強化  
 コンサルティング機能の充実  
 宮崎県内の推進強化(医薬推進室宮崎駐在)

合計残高  
**2,408億円**

## 外部との連携・サポート機能強化

**連携** 外部提携先5先からの拡充  
**サポート** 医薬推進室サポート案件 83先

## 農業

オール鹿児島での産業振興  
 「鹿児島アグリ&フード金融協議会」  
 商談会によるビジネスマッチング  
 ABL管理の高度化(アグリプロ)

## 畜産からの拡大

**耕種** 農業経営管理システム 試行完了  
**未開拓資源** 薩南諸島 他の資源開発支援  
**連携強化** 環境・観光との連携強化

# 揺るぎない営業基盤の確立(リレバン・法人)

## 営業利益改善支援活動

### 事業ソリューション (P/L)

- 販路拡大
- 仕入支援
- 海外情報
- 合理化・コスト削減
- 環境対応
- 企業年金・退職金
- アウトソーシング
- 業務提携・コンサル
- 技術提携・提供

etc

アジア進出支援  
 業務提携 東亜銀行(香港)  
 カシコン銀行(タイ)  
 商談会 国内21回 海外11回  
 外部機関との連携協定 70先 等

当行独自のIT活用  
 Key Man Key Man S3

戦略的 personnel 配置

現場力向上

顧客満足

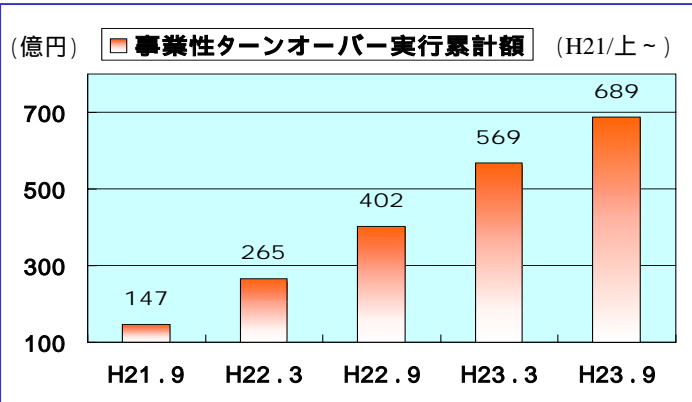
### 金融ソリューション (B/S)

- ABL
- クーポンスワップ
- M&A
- 企業間信用肩代り
- 事業承継
- 借入構造適正化
- B/S改善によるフリーCFの増加

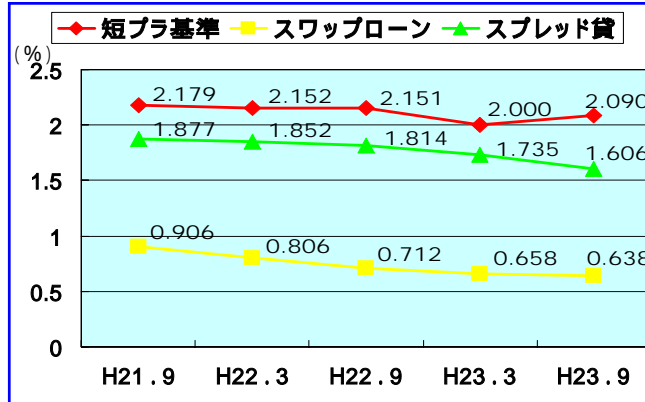
etc

企業サポート室の設置(審査部)  
 企業取引推進Gの拡充(営業支援部)  
 アグリプロの導入 等

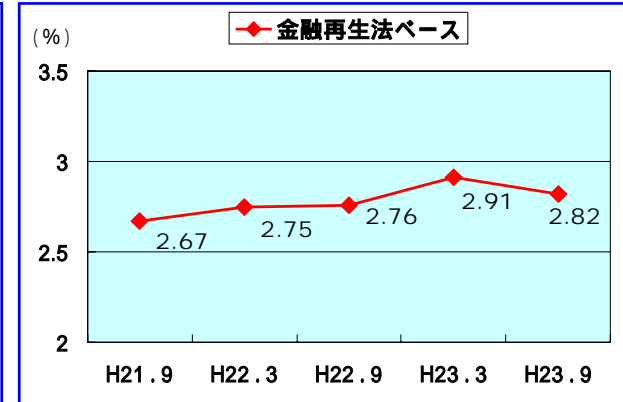
### ターンオーバー(他行肩代り)



### 金利ダンピング防止



### 不良債権比率



# 揺るぎない営業基盤の確立(リレバン・個人)

## トータルライフサポート

お客様セグメント		金融資産	20代	30代	40代	50代	60代	70代~
リレバン層	コア層	10百万円以上						
	ストック層							
	フロー層	10百万円未満						
マス層								

・住宅ローン、消費性ローン  
・保険(医療・がん等)、eバンク等

・預り資産  
・定期預金、年金  
・リフォームローン等

My Customer 運動 (リレバン)

MAの充実  
個人プラザの活用  
エリアMAによるフォロー  
CSナビの活用

商品サービスの改善

チャネルの多様化・利便性の向上

MA : マネーアドバイザー

### 投資信託・保険商品の拡充

(投資信託 3 商品 保険 4 商品の導入)

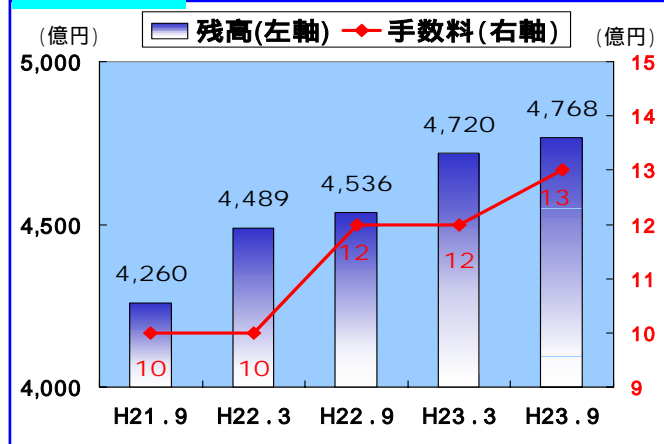
### 住宅ローンの拡充

(新変動金利型住宅ローンの導入)

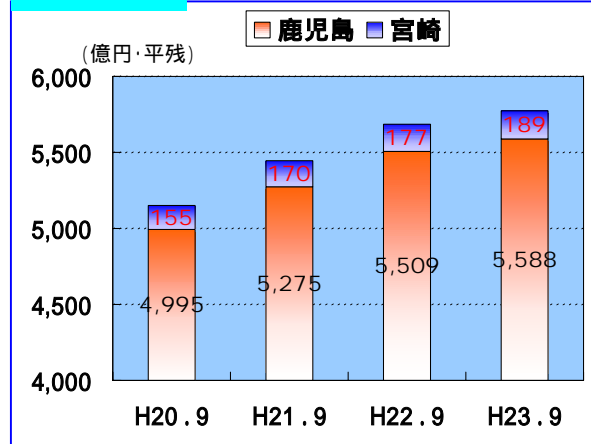
### 無人店舗 (ATM) の拡充

(コンビニへの設置)

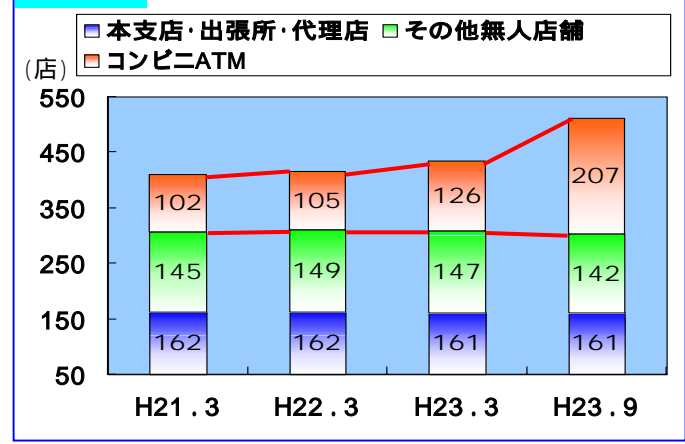
#### 預り資産



#### 個人ローン



#### ATM



戦略的人員配置

本部サポート機能

チャネルの拡充

都城ブロック営業本部設置

営業店サポート室 延岡分室の設置

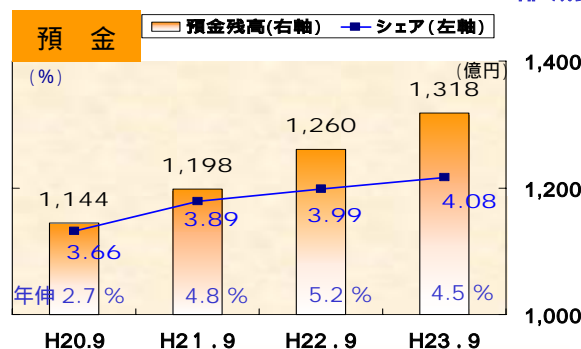
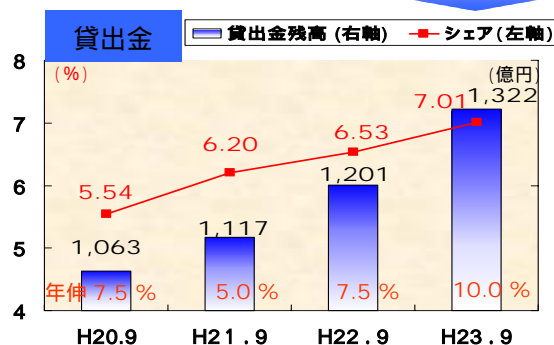
住宅センター 2か所の設置

医業推進室 宮崎の設置

営業担当者の増強

宮崎応援ファンド

宮崎県内 8か店



貸出金シェア(除く 公共向け・JA)  
預金シェア(除く JA・郵貯)

平成23年11月1日 宮崎にて営業を開始し130年

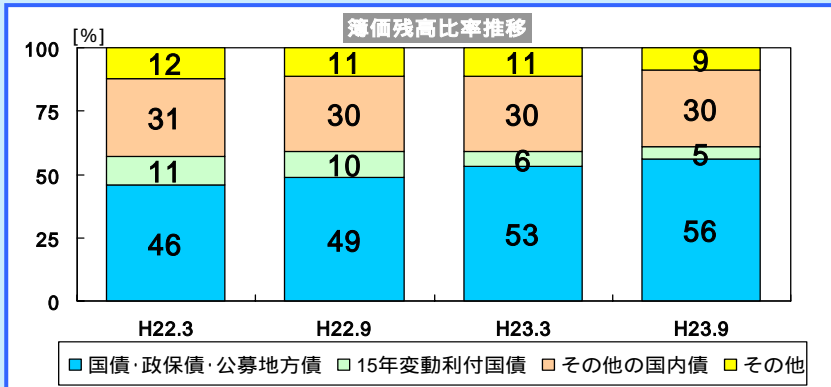
地元 宮崎としての経営資源の更なる注力

預金残高の伸び ↔ 預貸金のギャップを吸収  
**有価証券運用額の拡大 運用額 1兆円**

シンプルかつ機動的なポートフォリオ

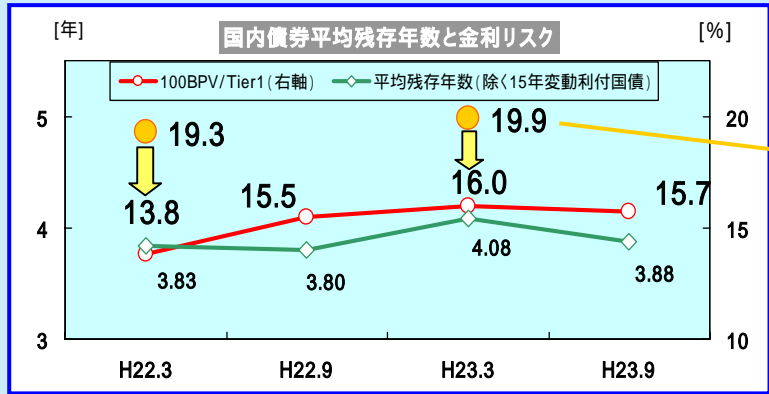
## 流動性資産の確保

国内債券中心に運用



金利リスクのコントロールを意識したオペレーション

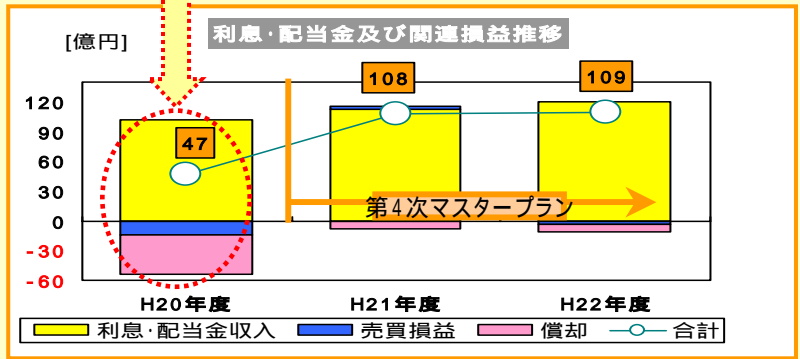
## 過度な金利リスクは回避



地域銀行平均  
100BPV/Tier1  
(地銀・第2地銀)  
日銀データより  
当行作成

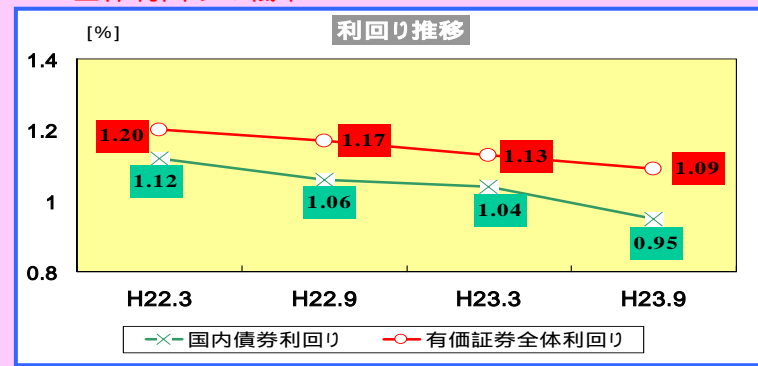
## 安定的な期間収益の獲得

市場急変時の影響 → 利息・配当金を中心とした収益構造



国内債券利回り低下による  
全体利回りの低下

組み換え容易なポートの特性を活かす



入替による  
利回り向上  
(国内債券)  
一部売買益確保  
(国内債券・投資信託)  
  
収益源の多様化着手  
(投資信託)

流動性資産の確保による安定的な期間収益の獲得

健全な銀行経営に寄与

# 次期中期経営計画

第4次マスタープラン

営業基盤強化・経営効率化・人材育成強化

アグリクラスター構想

進展

地域の多彩な資源

活かす

医療 介護

- ・高い高齢化率
- ・高齢化に対応した医療・介護施設の充実
- ・最新医療を有した施設

観光

- ・温暖な気候
- ・風光明媚な豊富な自然資産  
世界遺産(屋久島)・活火山(桜島)温泉等
- ・地域色あふれる食文化  
黒牛・黒豚・地鶏料理・焼酎等

環境

- ・地熱
  - ・風力
  - ・太陽光
  - ・バイオマス
- ナチュラルエネルギー

農 林 水産

- ・国内トップクラスの農業・内水面漁業生産額
- ・広大な森林面積(木材)
- ・温暖な気候に育まれた食材

地域内産業の有機的な連携支援

インバウンド

アウトバウンド

交流人口の増加

地域で生産・加工した製品

近いアジア

九州新幹線全線開通

南九州地域の総生産拡大

内容等についてのご照会は、下記までお願いします。

∞ ご照会先 ∞

株式会社 鹿児島銀行

総合企画部 IR 担当

古里（決算）・山方（経営戦略）

Tel 099 - 239 - 9725

Fax 099 - 226 - 4906

E-mail [souki@ml.kagin.co.jp](mailto:souki@ml.kagin.co.jp)

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。